

2024年度 学校(自己)評価書 (中等部)

東海大学付属静岡翔洋高等学校中等部

5～1は教員評価（5よい 4おおむねよい 3どちらともいえない 2やや不十分 1不十分）

分野	重点目標	成果と課題	評価	改善策
学校運営	特色ある土曜日の授業と多彩な学校行事や部活動による人間的な成長を目指す。	・学校の特徴が明確に打ち出され、一人ひとりの教員が、教育方針を理解し、熱心に教育に取り組んだ。 ・教職員は生徒募集目標達成の為に保護者・地域との連携や情報発信に努めた。 ・「夢中って無敵」のスローガンの下、積極的に学校改革に努め、周囲から高評価を得た。 ・体育祭や合唱コンクールなどの行事は、保護者サイトも活用して写真と動画の発信に努めた。 ・定期的な研究授業を実施し、互いに見学し合い研鑽に努めた。 ・教員全体の更なるICTに関するスキルアップが必要となる。	4.2	・学園・学校の基本的な教育方針を十分に理解し、具体的な目標を持って日々の授業や生徒指導に取り組む。 ・本校生徒の頑張りや教育の特色をHPやInstagramにアップすること、広報紙を配布することの二本立てで情報発信する。学年ごとで担当者を決め定期的な発信に努める。 ・* S 教員の休暇前日の仕事引継ぎを徹底する。教務主任、学年主任が最低限の開講講座を維持しながら、積極的年休の取得を促す。 ・学年や教科間での定常的な授業見学の実施。 * S 教員：日曜日を勤務日とし、その週の平日に休休を取得する教員。
学習指導	基礎学力の定着と、ICTを用いた多角的アプローチにより、学び続ける生徒育成を目指す。	・毎週火曜・金曜の朝の学習とそのほかの曜日での「朝の読書」により、落ち着いた雰囲気の中で学校生活を始めさせることができた。また「朝の学習」においては、満点でない放課後再試を徹底しているため、生徒の意識は向上した。 ・図書館の貸出ランキングを行った。 ・iPadを用いて授業の指導方法など工夫がなされている。 ・年間3回の授業評価アンケートを通じて授業の見直しを行い、授業改善を図った。 ・しつけの部分において、提出物の指導を各学年きめ細やかに行った。 ・基礎学力の向上はもとより、学年の指導により高校進学に対する意識が向上した。 ・家庭学習の習慣を完全に身に付かせるまでには至らなかった。 ・学習のために図書館を積極的に利用させることができなかったが、インターネットを活用した授業が増加している。またCocoaは図書館へ気軽にいくきっかけとして良い効果があった。 ・土曜日の選択授業は、教員の特色がよく出ていた。講座ごとに適正人数で本年度は行ったが、次年度も30名まで対応できるようになれば、教室が足りないという問題に対応できる。	3.8	・生徒のつまづき箇所の確認を行い、I C T 環境（GoogleWorkSpace）なども利用して、学び直しの機会を定期的に与えることに努める。 ・Smarkyの正答率などから、生徒の抜け漏れをより具体的に把握し、基礎学力の定着に務める。 ・研究授業や、相互授業参観などを通じて、授業力を上げる努力をする。 ・図書館の利用した本のランキングを朝礼発表に取り入れる。 ・学年主導による計画的な家庭学習課題を提示し、達成度を確認する。 ・一部生徒のCocoaでの私語や態度を改めるため、定期的に教員が図書館を巡回する必要がある。 ・土曜授業では、各先生方が年に1～3回、外部講師を呼び、地域連携をさらに深めていきたい。
クラス指導	日常生活、学校行事を通じ、他者との関りを積極的に楽しめる生徒の育成を目指す。	・学校行事の「合唱コンクールや体育祭の中身のレベルアップや建学祭での中等部生の意識改革など」が毎年の検討課題であったが、今年度はさらに充実した内容となった。体育祭においては、上級生が下級生をリードしていて、全体的に盛り上がっていた。・下肢のケガの処置は問題ないが、手の平や手指の皮むけ・擦過傷は処置が困難なので、綱取り時の軍手着用は次年度以降も継続する。・「応援」している場面が多々見られ、翔洋生活の5カ条の「応援」を体現していた。・応援のマナーが年々良くなってきている。・係の生徒の動きが去年よりも良かった。というようにそれぞれ改善させるための計画を立て、実行することができた。合唱コンクールは課題曲の取り組みに重点を置き時間をかけて指導し、丁寧に歌う力をつけた。建学祭においても学年ごとのブースを増やし、自らが参加するという形を作ることができた。昨年度よりもテーマを設け、より意味のあるものになった。教養講座については特記事項としてメンタルトレーニングを再度取り入れることができ、来年度もこの項目に力を入れていきたい。（継続できそうである。） ・担任と教科担当の情報交換を行い、連携の取れた授業展開が概ねできたが、更に確実に取り組むようにしたい。 ・進路について日常的に担任との面談を繰り返し、慎重に進路希望の確認を行い、付属高校の進学がさらに安定した。	4.1	・昨年度以上に、学校行事や生徒会行事を更に中身が充実するよう、しっかりとした計画を立てていく。2年目となった弁論大は、生徒の選出の段階から検討委員会だけでなく、全教員で検討し中等部全体の取組とし、更なりレベルアップを図りたい。 ・来年度も担任と教科担当は、生徒の学習環境をきちんと管理するために情報交換を行い、スムーズな指導にも心がける。 ・公共の場でも常に生徒が本校の一員であることを自覚した行動ができるように指導を行う。 ・人間関係のトラブルは減少傾向にあるが、いくつかの案件で保護者に対しての対応に苦慮したものがあり、今後、保護者に対するマニュアルを作り、教師陣が共通理解のもと、素早い対応をしていきたい。特に初期対応においてはもう一度全教員で確認をしていきたい。
生活指導	挨拶と礼儀を徹底し、社会で必要とされ周囲から愛される人間の育成を目指す。	・本年度も、生徒部として「挨拶・礼儀・身だしなみ・美しい環境づくり」を合言葉に活動した結果、確実に生徒にも浸透している。それと学校のスローガンに「応援」というものが付け加えられているが夏の高校野球応援においても全校生徒の一体感が表現することができた。 ・来校者や地域の方にも積極的に挨拶する姿が見られた。 ・教職員は校内の整理・整頓を意識して行った。いつでも、どこでも常に美しい環境を目指し、今後とも清掃を継続していくことが必要である。 ・生徒の頭髮・服装に関しては、一部の生徒で違反が見られ、課題が残った。水曜の1校時に毎月行われる全校集会（翔洋集会）において、注意喚起を繰り返し、生徒への伝達を徹底した。集会において、1年間行い時間の確保という点において、メリハリのある学校生活に大きく貢献していると感じる。	3.8	・地域の人々に「挨拶・礼儀・身だしなみ・美しい環境づくり」を合言葉に教育活動を実行していると認識していただけるように日常的に生徒指導をしていく。 ・登下校の自転車マナーについて、近隣からの苦情連絡が昨年度に比べ増加傾向にある。今後、危険箇所の指導は徹底していく必要があり、近隣住民から苦情が来ないよう乗車指導を行う。また鍵の施錠など自己管理に課題が残った。 ・一方、スクールバス利用者の増加により、各停留所での送迎マナー改善に保護者の協力をいただくことが今後の課題である。（このルールを守れない保護者が多く更なる呼びかけを行ってきたい。P T A 総会やクラス懇談会など） ・担任と教科担当は生徒の学習環境をきちんと整えることを心がけ、始業前の机の配列・挨拶・毎日の清掃活動の指導を日常的に意識して行う。（予定黑板においては確実に行うよう各担任に徹底したい） ・iPad導入に伴い、使用方法や管理については大きな問題はなかった。 ・全校集会の効果が今年度はかなりあった1年間あったので、この1時間を更に有効に使い生徒指導の向上に努めていきたい。
進路指導	自己分析と適性、正確な情報収集により、具体的な進路決定が出来る生徒の育成を目指す。	・中等部3年次には秋のオープンキャンパスに参加し、中等部2年次には「翔洋高校サタデーセミナー成果発表会」を見学することができ、翔洋高校の様子や活動を深く知る機会となった。また、中等部のみの入試説明会は、翔洋高校の先生方を知る機会になったとともに、入試に向けての意識を高めるものとなった。 ・今年度も全員が参加する放課後講習ではなく、毎週水曜日にオンライン課題を配信し、未提出者指導まで行った。 ・進路については、1・2学期の学力と照らし合わせながら担任との面談を行い、12月には保護者を含めた三者面談を実施し、慎重に進路希望の確認を行った。	3.8	・中等部での学校生活と照らし合わせながら、ベーシックコースでの高校生活をイメージできている生徒は多いように感じる。その一方で、アクセルコースの学習レベルや進度、放課後講習（ガチ勉）の勉強中心の生活のイメージが難しい生徒も多いように感じる。そうした状況から来年度以降は、中等部出身のアクセルコースやガチ勉選択の先輩の話を聞く機会や説明いただく機会を設ければ、より生徒が翔洋高校での生活のイメージを知る機会となるのではないかと考える。
特別活動	部活動や生徒会活動、係などを通じて、人間的に強く、社会のリーダーになれる人間の育成を目指す。	・部活動への取組に対する評価は、生徒・保護者・教職員ともに共通して高い。ただ募集の観点からいうと誰もが取り組むことのできる総合的な文化部を検討したい。また来年度から部活が自由化になるので、新しいルールを検討する必要があると思う。 ・今年度も学年チーフを軸として、生徒間の諸問題に速やかな対応が必要であったが、クラス担任や学年主任の負担が大きかったため、来年度はさらに生徒部が中心となって生徒指導を行い、先生方との共有をしたい。 ・生徒会選挙では、立候補者が少なかったが、今年度も適切な学校のリーダーを選出することができた。	4.5	・募集で女子の希望人数が、劇的に増加したことに対して、しっかりと分析をし、来年度の募集に役立てたい。 ・勉強と部活動の両立、部活動の前にまず勉強、と指導しているが、学習への取り組み状況は今後も課題である。来年度は部活自由化に伴う指導が課題となる。また5教科以外の教科についてはしっかりと具体的な学習目標を立てる中で学習させたい。 ・実技教科についても、期末試験の実施を具体的に検討した。最大限の中で実施することができた。 ・生徒会執行部の活躍の場を増やし、積極的に生徒会行事や学校行事に参加させていきたい。 建学祭の取り組みについては昨年以上に良くてきたと思う。
研究・研修	新人教員教育を充実し、分かる授業、考える授業を実施し、将来自ら学んでいける生徒育成を目指す。	・保護者向け公開授業を実施し多くの保護者に来校いただいた。 ・教員の授業力向上を目的に、学期末ごと授業評価アンケートを実施（生徒対象）。その授業評価アンケートの結果からベストティーチャーを決定した。全教職員の授業が魅力的になるよう、今後も研修が必要である。 ・新任教員の研修を1年かけて実施。研究授業、振り返り、他の授業見学を通して授業力向上に努めた。 ・全教職員で見合う授業研修や各教科での研究授業の実施、ファンリレーション研修や未来創造型教育について考える研修を進め、授業力を高めた。 ・総合学習の活性化を目的に、「高校現代文明論」の公開授業で他の付属高校と「探求」について研修会を行った。中等部の総合学習のゴールとして捉えて研修した。 ・授業態度や学級の雰囲気づくりを評価し、ベストクラス賞を授与した。	4.3	・授業や教員が魅力的であることが翔洋スタンダードとなるよう研修を積み必要がある。 ・多くの教職員が学びたいと望んでいる分野について、ゲストを招いて講話をいただき勉強したい。 ・校内研修では、教科授業を通して未来創造型教育を推進できるよう工夫ある展開を目指す。基本的な授業についてもスキルアップできる研修を打つ。 ・現在行われている研究部の研修活動を継続していく。
その他	・教育設備 ・情報発信 ・来客対応 など	・学校報『SHOYO Nowadays』を月1回程度発刊し、生徒・保護者へ校内の様子を伝えた。また中等部生の活躍を紹介する「羽ばたき」を4月に発行した。P T A 広報誌「海潮」の制作では広報委員にご尽力いただいた。 ・学校ホームページ、Facebook、Instagramによって生徒の様子や学校の紹介を伝える記事を発信した。 ・保護者サイトに学年だけでなくも掲載し、全学年の通信を閲覧できるように整えた。 ・グーグルカレンダーを共有し、保護者と学校との正確な情報共有に務めた。	4.4	・施設の有効利用を、在校生だけでなく小学生（説明会等への参加者）にもPRしていく。 ・清掃点検をこころがけ、必要に応じて適宜修繕を行う。 ・保護者サイトの活用幅を広げ、生徒にも効果的な連絡ツールとしたい。